

平成30年度病虫害発生予報第8号

平成30年11月2日
愛知 県

果樹

・予報内容

作物名	病虫害名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ウンシュウミカン	ミカンハダニ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±

・留意事項

カキ及びカンキツで果樹カメムシ類の発生が見られるほ場では、9月14日発表の「平成30年度病虫害発生予察注意情報第5号」を参考に収穫前日数に注意して防除しましょう。

カキ炭疽病の発生量が多くなっています。本病原菌は、枝の病斑の中で菌糸の状態越冬します。発病枝の切除を徹底しましょう。

野菜

・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	軟腐病	やや少ない	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない 11月の降水量は平年並	－ ±
	べと病	多い	県全域	10月下旬の発生量が多い 11月の降水量は平年並	＋ ±
	アブラムシ類	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い	＋
	コナガ	やや多い	県全域	10月下旬の発生量はやや多い フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 11月の気温は高い	＋ ± ＋
キャベツ	黒腐病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 10月の降水量は少なかった 11月の降水量は平年並	± － ±
	菌核病	多い	県全域	10月下旬の発生量が多い 11月の降水量は平年並	＋ ±
	コナガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 11月の気温は高い	－ ± ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は平年並	± ±
	黄化葉巻病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 10月下旬のコナジラミ類の発生量は平年並	± ±
	コナジラミ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナス (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
キュウリ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
	べと病	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 11月の日照時間は平年並	± ±
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	うどんこ病	少ない	県全域	10月下旬の発生量は少ない	—
	ハダニ類	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並	±
野菜共通	ハスモンヨトウ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±
	オオタバコガ	平年並	県全域	10月下旬の発生量は平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並	± ±

・防除対策

[ハクサイ・べと病]

収穫前日数に注意して、ランマンフロアブルやダコニール1000などで防除しましょう。

[ハクサイ・アブラムシ類]

収穫前日数に注意して、アドマイヤーフロアブルやウララDFなどで防除しましょう。

[ハクサイ・コナガ]

収穫前日数に注意して、ディアナSCやエスマルクDFなどで防除しましょう。

[キャベツ・菌核病]

収穫前日数に注意して、アフェットフロアブルやセイビアーフロアブル20などで防除しましょう。

・留意事項

虫媒伝染性ウイルス病のトマト黄化葉巻病（TYLCV）やトマト黄化病（ToCV）、キュウリ黄化えそ病（MYSV）が発生しているほ場では、発病株を抜き取り適切に処分するとともに、媒介虫（トマト黄化葉巻病はタバココナジラミ、トマト黄化病はコナジラミ類、キュウリ黄化えそ病はミナミキイロアザミウマ）の防除を徹底しましょう。

イチゴのハダニ類の発生量は平年並ですが、多発しているほ場があります。多発すると防除が難しくなるので、発生を確認したら、速やかに系統の異なる薬剤でローテーション防除しましょう。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台11月1日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率60%です。3～4週目は、高い確率50%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

〔日照時間〕 少ない：30% 平年並：40% 多い：30%

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。